

# 促成栽培イチゴにおいて アブラムシを寄生蜂で防除する方法

病害虫部

## 1 背景、目的

現在、安全で安心な農産物が求められています。そこで、福岡県の主要野菜であるイチゴの促成栽培において、化学農薬を削減した病害虫防除体系を確立する一環として、アブラムシの寄生蜂（コレマンアブラバチ）の利用方法を確立しました。

## 2 成果の内容、特徴

1) 促成栽培イチゴでは、10月下旬のビニル被覆後からアブラムシの発生が増加し、薬剤防除を行なわないと、冬季でも高い密度に達します（図1の無放飼区）。

2) 促成栽培イチゴでは、アブラムシの発生初期の10月下旬～11月上旬に、寄生蜂のコレマンアブラバチを1週間間隔で3回、1回につき500頭/10a放飼すると、ワタアブラムシの発生が4月まで抑制されます（図1の放飼区）。

3) 寄生されたアブラムシはマミーとなります（下の写真）。放飼直後からマミーが見られ、その後、寄生率（マミー率）が徐々に高くなれば防除が成功したと判断されます（図2）。

マミー：寄生され、外皮が硬くなったもの。

4) 以上の結果を踏まえて作成した、「促成栽培イチゴにおけるコレマンアブラバチの利用マニュアル（福岡県農業総合試験場ホームページに掲載）」には、より具体的な利用方法を示しています。



寄生される前のアブラムシ



寄生されたアブラムシ

### 3 主要なデータなど

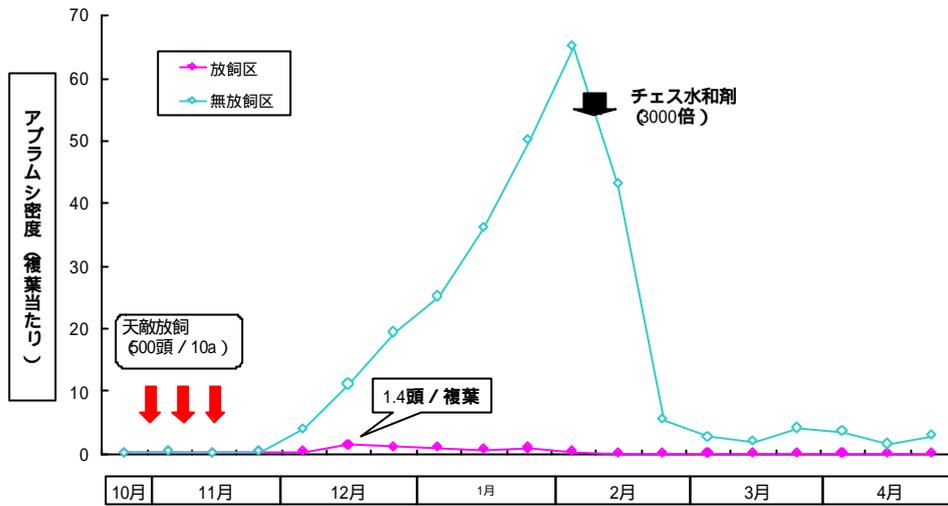


図1 アブラムシに対するコレマンアブラバチの密度抑制効果 (平成14年)  
注) キャットアグリシステムズのコレマンアブラバチを試験に用いた

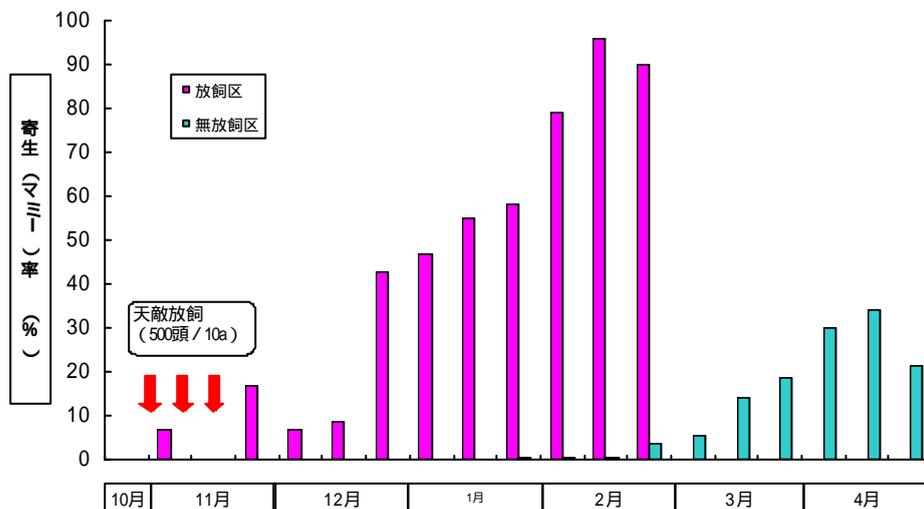


図2 試験圃場における寄生(マミー)率の推移 (平成14年)  
注) 寄生(マミー)率 = マミー数 / (マミー数 + アブラムシ数) × 100

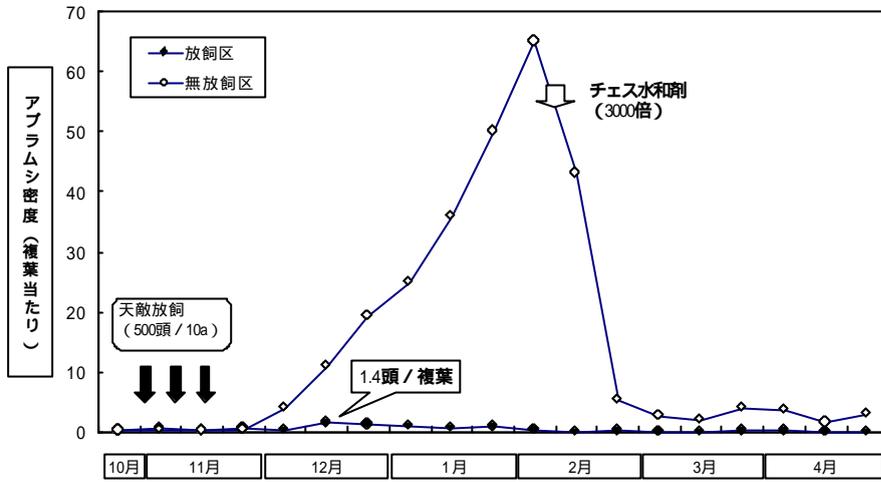


図1 アブラムシに対するコレマンアブラバチの密度抑制効果 (平成14年)  
 注) キャットアグリシステムズのコレマンアブラバチを試験に用いた

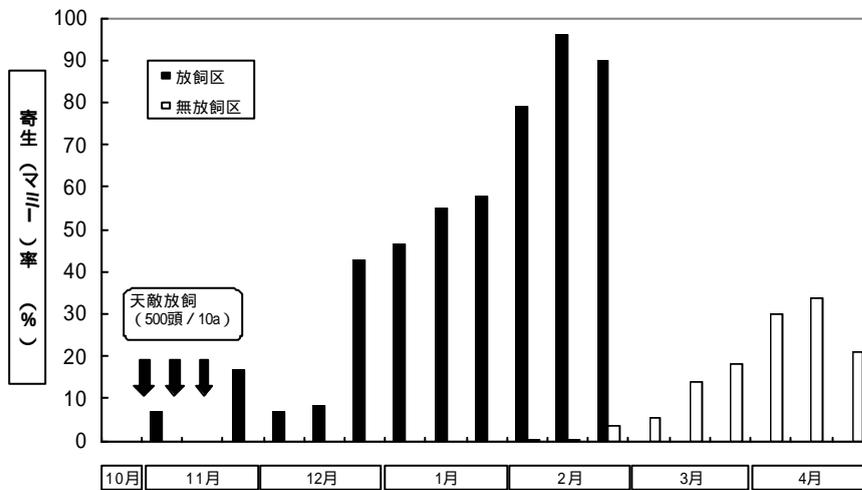


図2 試験圃場における寄生(マミー)率の推移 (平成14年)  
 注) 寄生(マミー)率 = マミー数 / (マミー数 + アブラムシ数) × 100